

スマホ・ケータイの機能利用志向の類型化

— 2003 年・2010 年・2020 年・2025 年調査の比較 —

○水野 一成¹ 近藤 勢津子¹ 廣瀬 通孝²

¹NTTドコモ モバイル社会研究所 ²東京大学名誉教授

1. はじめに

1. 研究目的

NTTドコモ モバイル社会研究所では、スマートフォン（以下、スマホ）およびケータイ（フィーチャーフォン・ガラケー）を利用する人々が好む機能や便利と感じる点を明らかにするため、2025 年 1 月に調査を実施した。本調査は、2003 年、2010 年、2020 年にも行われており、その際の時代に応じたサービス名に基づいて設問が変更されている。本稿では、過去の調査結果と比較しながら、利用者の機能利用に対する意識の変化を明らかにする。

1. スマホ・ケータイの所有変遷

過去 22 年間に於いて、スマホ・ケータイの所有状況には劇的な変化が見られる。2003 年時点ではスマホは登場しておらず、ケータイの普及率は 94.4%[1]に達していた。この時期は、第 3 世代携帯電話が市場に出始めた頃にあたる。2010 年においてはスマホが登場したものの、スマホ・ケータイ所有者に占めるスマホの割合は 4.4%程度[2]であり、スマホが普及する前の段階であった。さらに 10 年後の 2020 年時点では、スマホの割合が 88.9%[2]に達し、多くの人々がスマホを所有する状況となった。また、SNS の利用も急速に進み、76.2%[3]の人が利用している。2025 年の調査においては、スマホの割合はさらに増加し、98.0%[2]に達している。この期間では特に 70 代の普及が顕著であり、2020 年時点でのスマホ所有率は 48%であったが、2025 年時点では 85%[4]にまで上昇している。このように、モバイル機器の所有状況に関しても大きな変化がある。

2. 調査概要

調査時期：2025 年 1 月 調査対象：関東、15～79 歳男女 調査方法：訪問留置法

標本抽出法：QUOTA SAMPLING 性別・年齢(5 歳刻み)・地域・都市規模で割付 450 人回収

3. 分析手順

- 1.2025 年調査のスマホ・ケータイの機能利用に関する設問を基に因子分析を実施
- 2.抽出した因子を基にクラスタ分析を実施し類型化を行う
- 3.クラスタの属性・QOL・ライフスタイルを確認
- 4.因子及びクラスタを 2003 年・2010 年・2020 年と比較

4. 分析結果（2025 年調査）

1. 因子分析

スマホ・ケータイに関わる機能に対する評価や利便性など、計 22 問 4 件法で調査を行った結果を基に、因子分析（因子抽出法：主因子法、回転方法：バリマックス回転）した結果である。固有値 1

以上（負荷量は 63.5%）で 6 因子「実用」「夢中」「人物把握」「SNS 志向」「通話/メール志向」「未来志向」が抽出された（表 1）。

2. クラスタ分析

上記で抽出された 6 因子を基に、クラスタ分析を行った。第 1 クラスタは「実用」のみ高いため「多面活動」、第 2 クラスタは「通話/メール志向」がかなり高いため「通話/メール志向」、第 3 クラスタは多くの項目で負の値であることから「消極」、第 4 クラスタは人物把握が極めて高いため「人物像」、第 5 クラスタは夢中が極めて高いため「夢中」、第 6 クラスタが「SNS 志向」が高いため「SNS」と名付けた。構成比を見ると、第 3 クラスタ「消極」と「通話/メール志向」の割合がやや多く、それぞれ 22.4%、19.8%であった（表 2）。

3. クラスタの特性

各クラスタの特性を属性・QOL・ライフスタイルで特性をみた。夢中は平均年齢が低く、女性の割合が高く、少し地方部に居住している割合が高い。さらに、イノベータ得点や情報欲求志向[5]も高い傾向が見られた。人物像も夢中と同様に平均年齢が低く、イノベータ得点や情報欲求志向が高い傾向であったが、やや男性の割合が高く、都市部に居住している傾向が見られた。続いて、多面活用であるが、QOL に関する得点が高い特性が見られた。SNS は男性の割合が高い傾向が見られた。通話/メール志向はやや年齢が高く、地方部に居住している割合が少し高い。消極は平均年齢が高い。

表 1 スマホ・ケータイ利用機能（因子分析）

	実用	夢中	人物把握	SNS志向	通話/メール志向	未来志向
映画・演劇・コンサートなどのチケットの予約ができて便利だ	0.85	0.15	0.12	0.00	0.05	0.04
乗車券・航空券などの予約ができて便利だ	0.82	0.09	0.12	0.04	0.04	0.02
バスや電車の切符代わりになって便利だ	0.78	0.13	0.10	0.05	0.03	0.07
スマホ・ケータイをかざして、買い物ができるのは便利だ	0.73	0.20	0.11	0.08	-0.01	0.00
状況に応じた自然な外国語の同時通訳ができれば便利だ	0.63	0.13	-0.18	0.03	-0.05	0.18
事故や犯罪など危険を事前に察知して警告してくれたら便利だ	0.62	0.12	-0.06	0.02	0.11	0.19
健康管理や急病時の通報をしてくれたら便利だ	0.59	0.04	-0.18	0.01	0.08	0.25
メール・SNSをしていると時間を忘れる	0.15	0.90	0.07	0.11	0.11	0.05
スマホ・ケータイで話していると時間を忘れる	0.06	0.69	0.12	0.09	0.16	0.12
動画を見たりゲーム等をしていると時間を忘れる	0.23	0.67	0.16	0.07	0.06	0.10
自分らしく生きるためにSNSは欠かせない	0.26	0.43	0.23	0.40	0.17	0.12
情報収集にはSNSが欠かせない	0.38	0.41	0.08	0.30	0.07	0.04
スマホ・ケータイを忘れると落ち着かない	0.30	0.37	0.11	0.04	0.09	0.14
どんなスマホ・ケータイを持っているかでその人のセンスがわかると思う	0.01	0.23	0.85	0.17	0.08	0.21
どんなスマホ・ケータイを持っているかで人柄がわかると思う	0.00	0.21	0.82	0.14	0.09	0.19
いろいろ頼んだり相談したりするのはSNSが一番だ	0.06	0.14	0.12	0.81	0.18	0.00
大事な連絡は電話やメールよりもSNSの方が確実だ	-0.02	0.09	0.08	0.76	0.19	0.00
なにかを頼んだり相談したりするのはスマホ・ケータイで話すに限る	0.03	0.14	0.06	0.07	0.95	-0.03
大事な連絡はスマホ・ケータイで話すのが一番だ	0.08	0.14	0.01	0.22	0.62	0.08
いろいろ頼んだり相談したりするのはメールが一番だ	0.04	0.10	0.10	0.26	0.37	0.07
未来のスマホ・ケータイの姿がどうなるのか非常に楽しみである	0.20	0.17	0.26	0.05	0.09	0.82
将来、新たに何か出来るようになるのが楽しみである	0.31	0.20	0.19	0.00	0.03	0.74

太字・・・因子負荷量が 0.3 以上

表2 スマホ・ケータイ利用機能（クラスタ分析）

		多面活用	通話/メール志向	消極	人物像	夢中	SNS	全体	備考
因子	実用	0.52	0.14	-1.06	0.14	0.47	0.35		
	夢中	-0.02	-0.14	-0.30	0.39	1.08	-0.72		
	人物把握	-0.42	-0.24	0.04	1.56	-0.58	-0.34		
	SNS志向	-0.26	-0.11	-0.33	0.27	-0.13	0.72		
	通話/メール志向	-0.51	1.36	-0.35	-0.14	-0.32	-0.36		
	未来志向	-1.21	-0.10	0.05	0.18	0.60	0.44		
構成	回答数	63	89	101	66	62	69	450	
	構成比	14%	20%	22%	15%	14%	15%	100%	
	平均年齢（歳）	45.4	52.2	57.0	39.0	40.1	50.2	48.4	15-79歳
	男性比(%)	38.1	51.7	49.5	53.0	40.3	66.7	50.2	
属性	政令市及び特別区	39.7	36.0	36.6	51.5	35.5	43.5	40.0	
	20万以上市	28.6	22.5	29.7	18.2	22.6	23.2	24.4	
	10万以上市	17.5	20.2	13.9	16.7	19.4	20.3	17.8	
	10万未満	14.3	21.3	19.8	13.6	22.6	13.0	17.8	
QOL	生活満足度（点）	7.1	6.4	6.1	6.7	6.5	6.3	6.5	0-10点
	健康満足度（点）	6.6	5.9	5.7	6.3	6.1	5.9	6.0	0-10点
	幸福感（点）	7.4	6.8	6.6	7.0	7.2	6.8	6.9	0-10点
ライフスタイル	イノベータ（点）	8.0	7.6	7.8	8.7	8.8	8.2	8.1	4-16点
	情報欲求志向（点）	4.2	4.3	4.3	5.0	5.2	4.7	4.6	2-8点

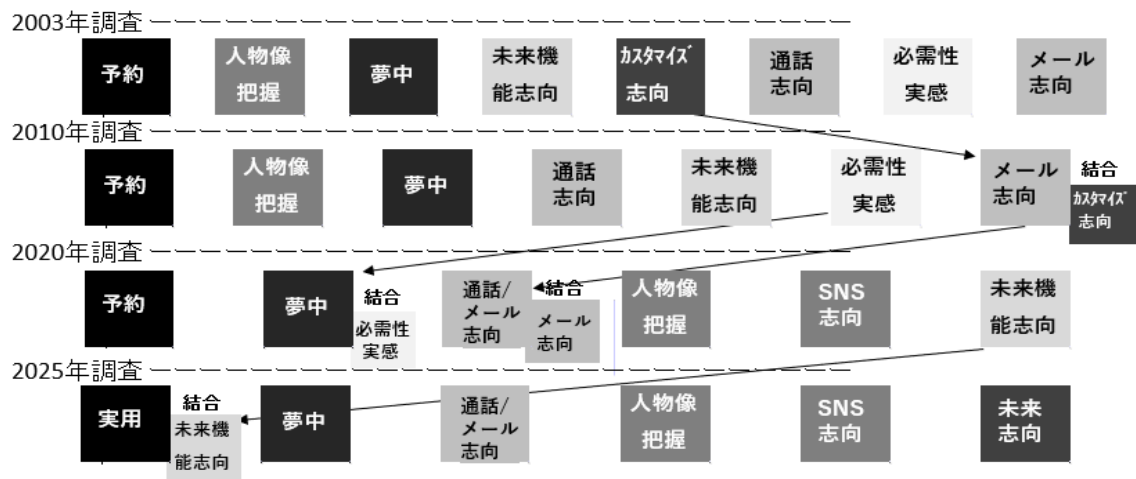


図1 スマホ・ケータイ利用機能（因子 経年変化）

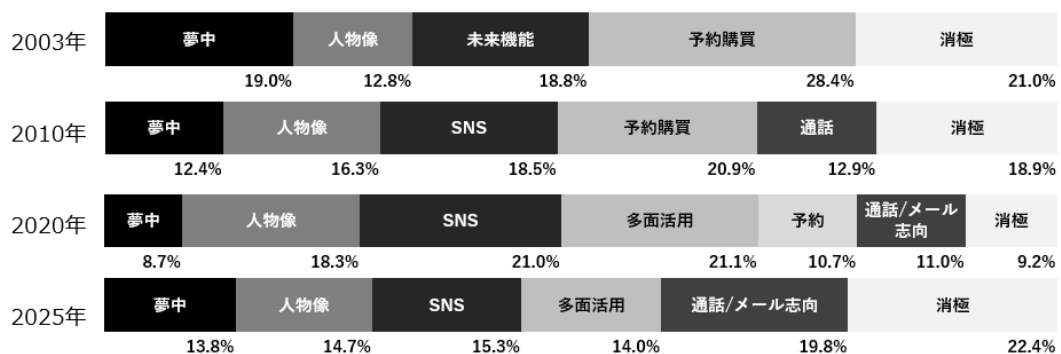


図2 スマホ・ケータイ利用機能（クラスタ 経年変化）

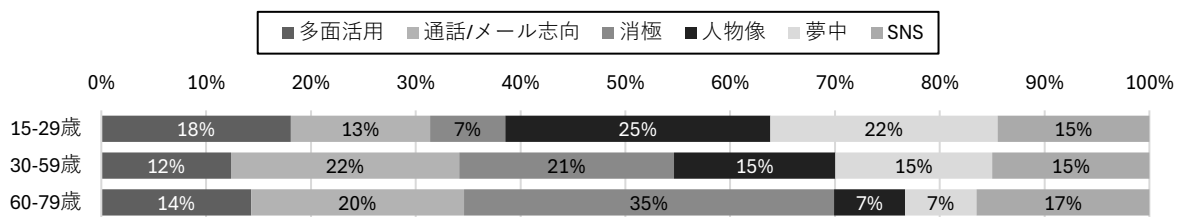


図3 スマホ・ケータイ利用機能（クラスター年代構成）

4. 分析結果（経年比較）

1. 因子

2020年と2025年を比較した時に、「予約」と「未来機能志向」が統合され「実用」となった。予約に関する項目は現在既に多くの方が利用しているものと、翻訳や警告、通報など現在まだ普及していないサービスに関する項目が統合された。また新たに今後の機能に期待する「未来志向」の因子ができた。この2点以外は同じ因子が確認できた。2003年から経年変化みても、一部結合された因子はあるものの大きな変化はない。「人物把握」や「夢中」は2003年から変わらず抽出されている（図1）。

2. クラスター

2020年と2025年を比較した場合、最も大きな違いが構成比の変化である。特に「夢中」と「消極」は減少傾向にあったが、2025年では増加した（図2）。その要因を探る上で鍵となりそうなのは年代ごとの構成である。若年層は「夢中」が多く、シニア層は「通話/メール志向」「消極」が多い（図3）。ここまで年代差が明確になったのは初めてである。この背景の一つにはこの5年で大きくスマホが普及した70代のスマホの所有理由がある。2020年ごろまでにスマホを所有したシニアは使いたい機能・サービスがあった等「能動的な理由」が多い。それに対して、直近にスマホを所有したシニアの理由は「家族からの勧め」や「ケータイが使えなくなった・使えなくなると聞いた」等「受動的な理由」が多い。まだスマホを所有する前は何かしらのスマホの機能利用に期待をしていたが、スマホ所有をしてもケータイと同じ利用をしているシニアを中心に「通話/メール志向」「消極」に移行した可能性がある。今後、この世代へのサポートが進み、シニア層も、よりスマホを活用できる環境ができればまた構成比は変わっていくのではないかな。

6. 参考文献

- [1] 総務省「平成29年版 情報通信白書」<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/html/nc111110.html>（2025.6.12 確認）
- [2] NTTドコモ モバイル社会研究所「携帯電話所有者におけるスマートフォン比率」
<https://www.moba-ken.jp/project/mobile/20250421.html>（2025.6.12 確認）
- [3] ICT総研「2024年度 SNS利用動向に関する調査結果」
<https://ictr.co.jp/report/20250122.html/>（2025.6.11 確認）
- [2] NTTドコモ モバイル社会研究所「70代 スマホ・従来型ケータイの所有率（経年推移）」
<https://www.moba-ken.jp/project/seniors/seniors20250324.html>（2025.6.12 確認）
- [4] 飽戸弘(1987)『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社, 300-302